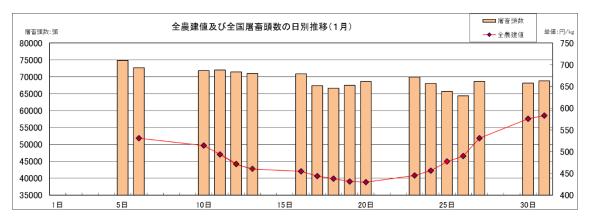
肉豚インフォメーション(1月)

【全農建值】

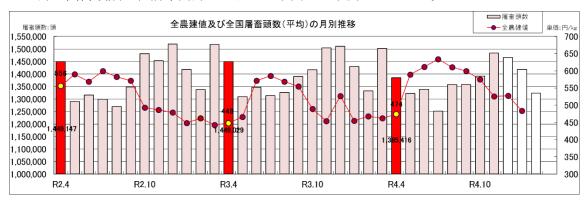
2023年1月(税抜)	2022年1月(税抜)
484 円/kg(<mark>29 円高</mark>)	455 円/kg

1月は、年明けの補充買い等の動きは見られず、上中旬にかけて荷動きは鈍かった。月末になるにつれて寒波の影響を見越した買い等もあり相場は大きく上げる展開となった。



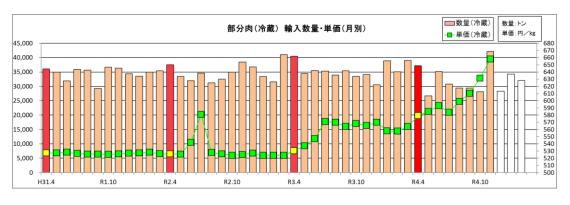
2月以降の動向

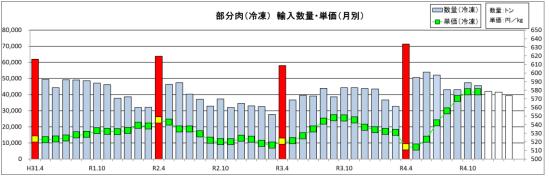
2月の出荷頭数は、前年同月をわずかに下回ると予測されている。



冷蔵品輸入量は、1月は、為替の影響や北米の現地相場の高止まりに加え前年同月のカナダの輸入量が洪水の影響で通関がずれ込み数量が多かったこと等から、前年同月をかなり大きく下回ると予想する。2月は、1月と同様に為替の影響や北米の現地相場の高止まり等から、前年同月をかなりの程度下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をかなりの程度下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、1月は、北米の現地相場の高止まりや為替の影響等から、前年同月をやや下回ると予測する。2月は、北米の現地相場の高止まりや為替の影響はあるものの、前年同期と比較するとスペイン産の安定的な輸入が見込まれること等から、前年同月をかなりの程度上回ると予想する。なお、3カ月平均では、前年同期をわずかに下回ると予測する。(ALIC 豚肉の需給予測について 1月26日)





輸入豚肉の価格が高騰している。量販店では、冷凍輸入豚肉を解凍して販売する売り場を 拡げており、欧州産だけでなくチリ産が増えてきている。セカンド冷凍庫の需要が伸びる中 消費者マインドが変わってきており、解凍肉に対するイメージも変化してきている。

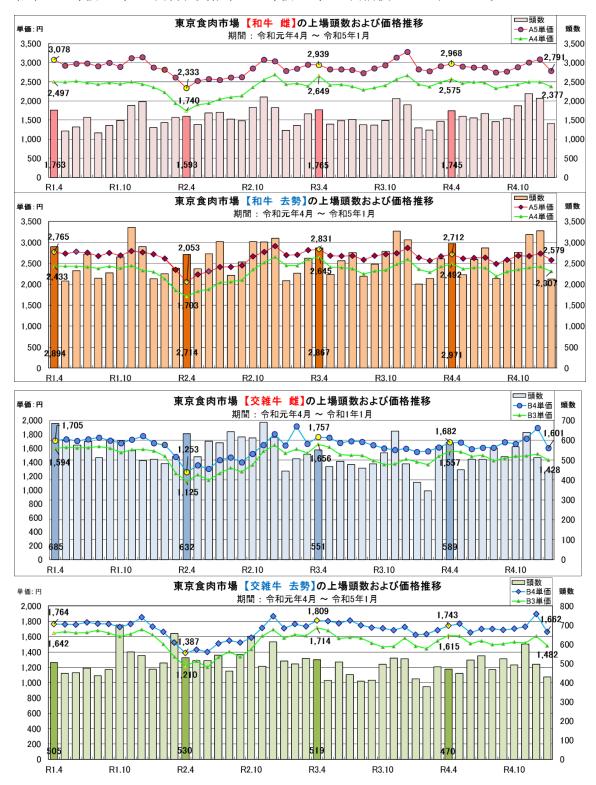
年明け以降も値上げが続いており、依然として消費自体は低迷が予想される。価格訴求力の高い冷凍輸入豚肉の動向を注視していく必要がある一方で、国産豚肉の価値を高め輸入豚肉との差別化をしっかり進めていく必要がある。

2月の上旬は堅調に推移し、中旬以降は軟調に推移する見通し。 全農建値(税抜)予測レンジは 480円~580円とする。

肉牛インフォメーション(1月)

●1月の動向

1月は年明けの補充買いが落ち着いて以降、相場は和牛と交雑牛ともに軟調に推移した。 和牛A4等級で2,200円台、交雑牛B3等級で1,400円前後にまで下がった。



3/6

●2月の動向予測

東京市場は、前年より1割以上多い6,600頭ほどの上場を予定している。和牛は1月の相場から最大100円ほど下がるとの見方もある。一方、交雑牛は和牛からのシフトが進むなど需要増加が期待されている。

2月相場は「弱もちあい」の展開と予想。

和牛去勢 A5 等級 2,500 円 (税込み) A4 等級 2,300 円 (税込み)

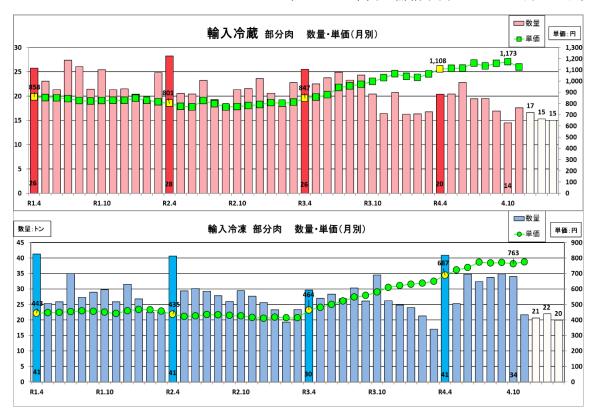
交雑去勢 B4 等級 1,600 円 (税込み) B3 等級 1,400 円 (税込み)

●輸入牛肉

冷蔵品輸入量は、国内需要の低下や為替の影響等により、1月、2月ともに前年同月をかなりの程度下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をかなり大きく下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、冷蔵品と同様に、国内需要の低下や為替の影響等により、1月、2月ともに前年同月をかなりの程度下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をかなり大きく下回ると予測する。

(ALIC牛肉の需給予測について1月26日)



●消費動向

物価高騰が消費行動を慎重にさせているものの、今年 3 月までの全国旅行支援に加え、 国内への外国人旅行者は回復をみせており、ビジネス利用やインバウンド消費による需要 回復に期待したい。

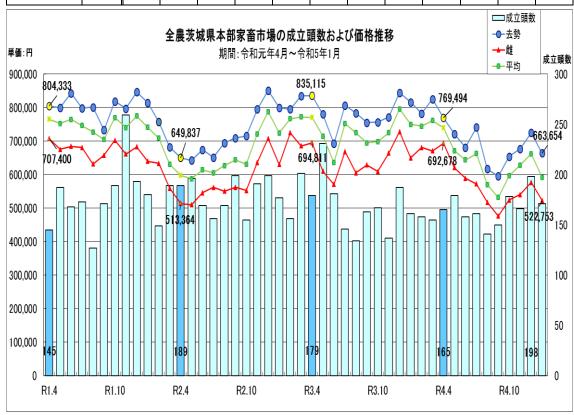
●全農茨城県本部家畜市場動向

素牛平均価格(1月税込)は、黒毛和種の雌は 522,753 円で前月比▲53,896 円、去勢は 663,654 円で前月比▲60,715 円となった。上場頭数(成立)は 171 頭で前月比▲27 頭。 次回上場頭数は 170 頭を予定している。

全農茨城県本部家畜市場実績(和牛子牛)

(税込)

		年間平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年度	平均単価	673,129	597,847	587,552	614,164	605,310	626,590	643,417	630,988	721,612	787,489	723,844	766,531	772,200
	去勢	734,165	649,837	642,142	674,214	650,911	694,492	709,130	714,912	794,798	850,944	799,476	794,563	834,562
	雌	598,275	513,364	510,047	545,753	561,990	550,285	562,199	552,310	635,950	707,450	630,022	724,591	685,339
3年度	平均単価	730,497	770,842	714,424	635,683	752,483	724,531	694,491	698,157	724,764	795,341	749,776	744,087	761,385
	去勢	787,183	835,115	780,016	692,025	806,078	783,500	754,794	756,500	771,029	844,433	815,667	781,744	825,290
	雌	648,362	694,811	609,771	570,768	668,800	605,318	628,777	608,940	663,598	728,228	649,911	680,900	670,519
4年度	平均単価	629,606	739,233	671,234	643,591	662,357	569,995	531,740	596,089	628,153	661,700	591,967		
	去勢	684,210	769,494	721,233	680,689	741,157	616,499	594,914	653,667	676,428	724,369	663,654		
	雌	563,179	692,678	620,672	589,102	572,000	517,150	476,244	523,934	540,603	576,649	522,753		
2年度	成立頭数	178	189	196	169	156	169	199	155	191	199	177	156	201
3年度	成立頭数	167	179	231	181	146	134	163	167	137	187	161	158	155
4年度	成立頭数	167	165	179	158	161	141	150	178	166	198	171		



食肉インフォメーション(1月)

日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査 12 月度結果報告によると、コロナ感染者増加の中でも年末にかけて外食需要が増えたことに価格改定も加わって、前年比108.6%、コロナ前の 2019 年比で 100.6%となった。しかし夜間や忘年会の需要は乏しく、特に居酒屋などの飲酒業態は 2019 年比 58.6%となっている。

量販店については、日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3 団体の 12 月の販売統計速報によると畜産部門の売上高は 1,420 億円(前年同月比 105.6%、既存店ベース 104.0%) で、豚小間切れ肉や鶏団子などの鍋物用が好調だったが、牛肉は相場高騰で国産・輸入ともに苦戦した。年末にかけては帰省客増加により、牛肉もお歳暮関係を中心に動きが良くなった。

1月は年末年始が明けると需要が落ち込む時期になるが、そこに物価高が加わって特に 和牛のような高級商品の荷動きが厳しくなる見込み。一方で全国旅行支援の再開でホテル・外食向けの需要は回復傾向で、そちらへの期待感が強まっている。

○牛肉

12 月は、国産では最需要期に伴う相場高騰により、比較的安価な肩・モモ中心の動きとなった。年末にかけては、高価なロースの代替として肩ロースに動きがみられた。輸入物では、ロイン系の引き合いが強かったものの、価格の高止まりや入船遅れ等で締まった荷動きとなった

○豚肉

12 月は、国産では出荷頭数が安定した動きになった他、堅調な鍋物需要と高値の牛・鶏への代替需要が重なり、バラスライスを中心として活発な荷動きとなった。輸入物は、冷凍・冷蔵ともにバラの引き合いが強かったが、現地相場高や為替の影響で荷動きは控えめだった。

○業態別概況

表:全農いばらき食肉センター 業態別取引先実績(令和4年12月期) 単位:千円、%

年度	J A	どきどき	給食	仲卸	食肉	量販店	飲食店	合計
					専門店			
令和 2 年 12 月	15,622	28,418	9,130	60,126	24,184	20,205	7,788	165,473
令和 3 年 12 月	15,879	29,007	10,562	52,511	26,593	14,000	9,627	158,179
令和 4 年 12 月	16,196	26,274	9,282	43,031	26,840	13,918	8,978	144,519
増減(R4-R3)	317	-2,733	-1,280	-9,480	247	-82	-649	-13,660
対比(R2/R4)	104%	92%	102%	72%	111%	69%	115%	87%
対比(R3/R4)	102%	91%	88%	82%	101%	99%	93%	91%